

# 第1章 東日本大震災の概要

## 第1節 地震の概要

### 1 東北地方太平洋沖地震の概要

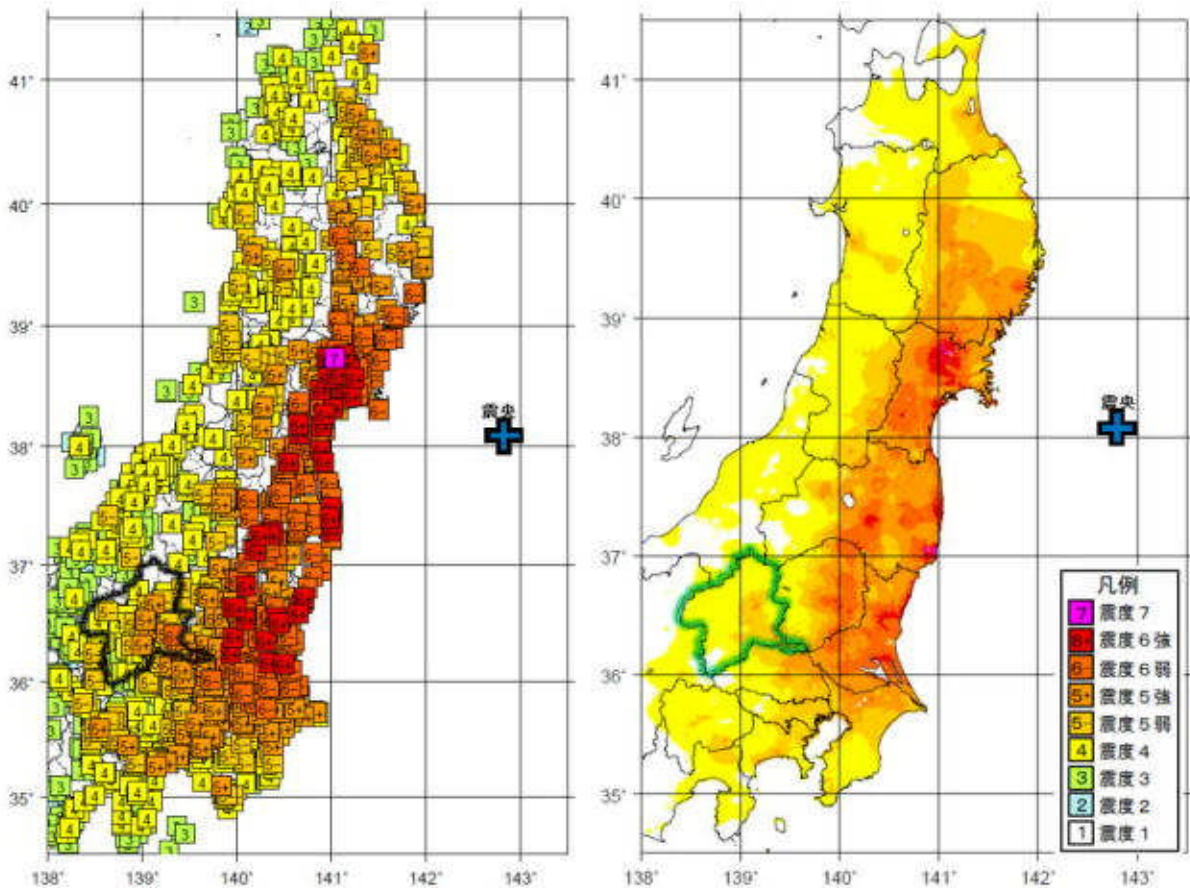
#### (1) 概要

平成23年3月11日14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード(M)9.0の地震が発生し、宮城県栗原市で震度7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県の4県37市町村で震度6強を観測したほか、東日本を中心に広い範囲で震度6弱～1を観測した。

また、この地震に伴い、東北地方から関東地方北部の太平洋側を中心に非常に高い津波が発生した。この地震(津波及び余震を含む)により、死者16,278人、行方不明2,994人、全壊家屋129,197棟などの甚大な被害を生じた(平成24年3月11日17:00現在、消防庁災害対策本部まとめによる)。気象庁はこの地震を「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名した。また、この地震による災害について「東日本大震災」と呼ぶことが閣議決定された。「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(M9.0)は、国内観測史上最大規模の地震であった。

余震は岩手県沖から茨城県沖にかけて、震源域に対応する長さ約500km、幅約200kmの範囲に密集して発生しているほか、震源域に近い海溝軸の東側、福島県及び茨城県の陸域の浅い場所も含め広い範囲で発生している。

#### 震度分布図



(気象庁HPの画像を一部加筆)

## 津波の状況



宮城県仙台市荒浜地区における津波の状況〔平成23年3月11日16時05分撮影〕  
(仙台市消防局提供)



岩手県宮古市における津波の状況〔平成23年3月11日15時23分撮影〕  
(岩手県宮古市提供)

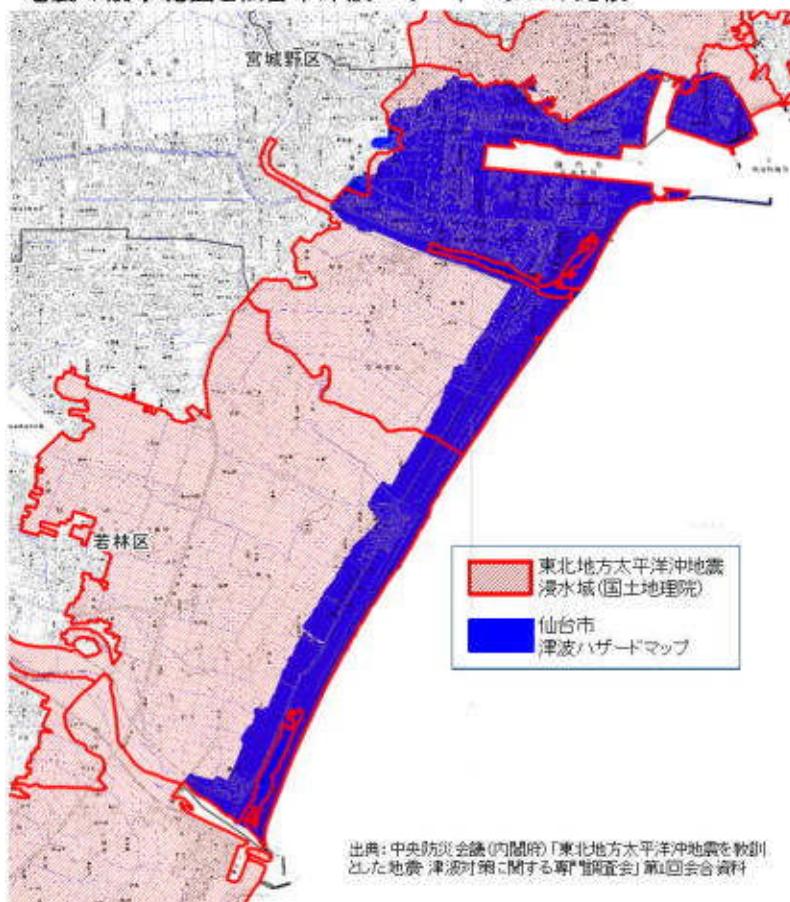
(総務省消防庁 HP「平成23年度版消防白書」より)

津波による浸水面積は、宮城県が最も大きく327km<sup>2</sup>で、次いで、福島県112km<sup>2</sup>、岩手県58km<sup>2</sup>、青森県24km<sup>2</sup>、茨城県23km<sup>2</sup>、千葉県17km<sup>2</sup>となっており、全浸水面積は561km<sup>2</sup>に及ぶ(参考：国土地理院「津波による浸水範囲の面積(概略値)について(第5報)」(平成23年4月18日))。

気象庁の【津波警報(大津波)】は、岩手県及び福島県(宮城県は最初から6mの予想)では当初3m程度と発表したが、30分後には6m、更に15分後には10m以上と訂正された。

一部の市町村では、停電のため続報を受信できず、最初の「3m程度」と放送し続けた。このため、高い山ではなく、2階に避難すればよいと判断し被災した人が多い自治体もある。

### 地震の浸水範囲と仙台市津波ハザードマップの比較

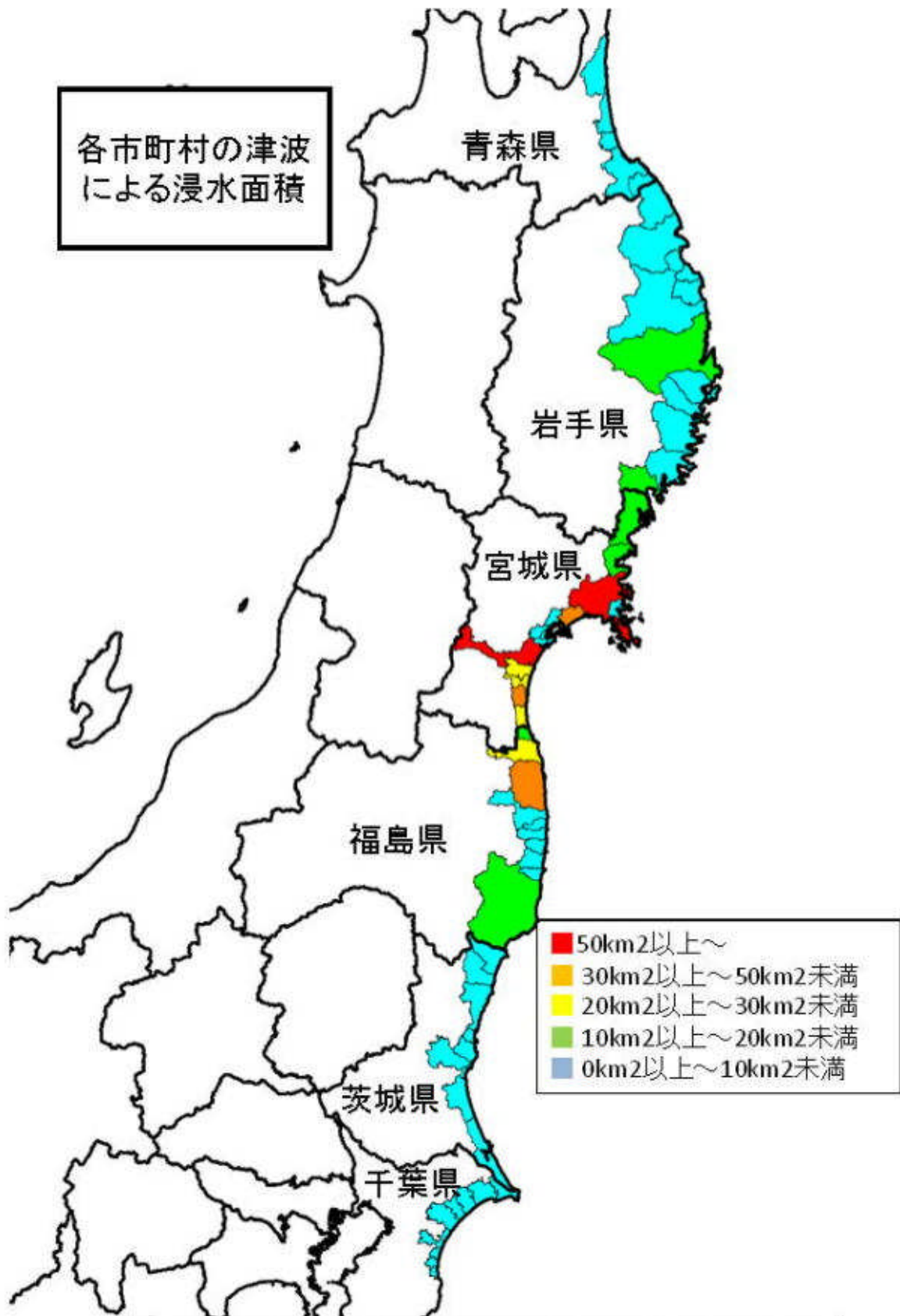


「3m」という数字が一人歩きして、的確な避難を遅らせた可能性がある。予想された津波高を知らせず、「とにかく逃げて」と訴えて功を奏した自治体もある。

(参考：内閣府 原子力対策本部「原子力安全に関する IAEA 閣僚会議に対する日本国政府の報告書—東京電力福島原子力発電所の事故について—」)

ハザードマップと実際の浸水範囲を比較すると、被害の想定を遙かに超える津波であったことが窺える。





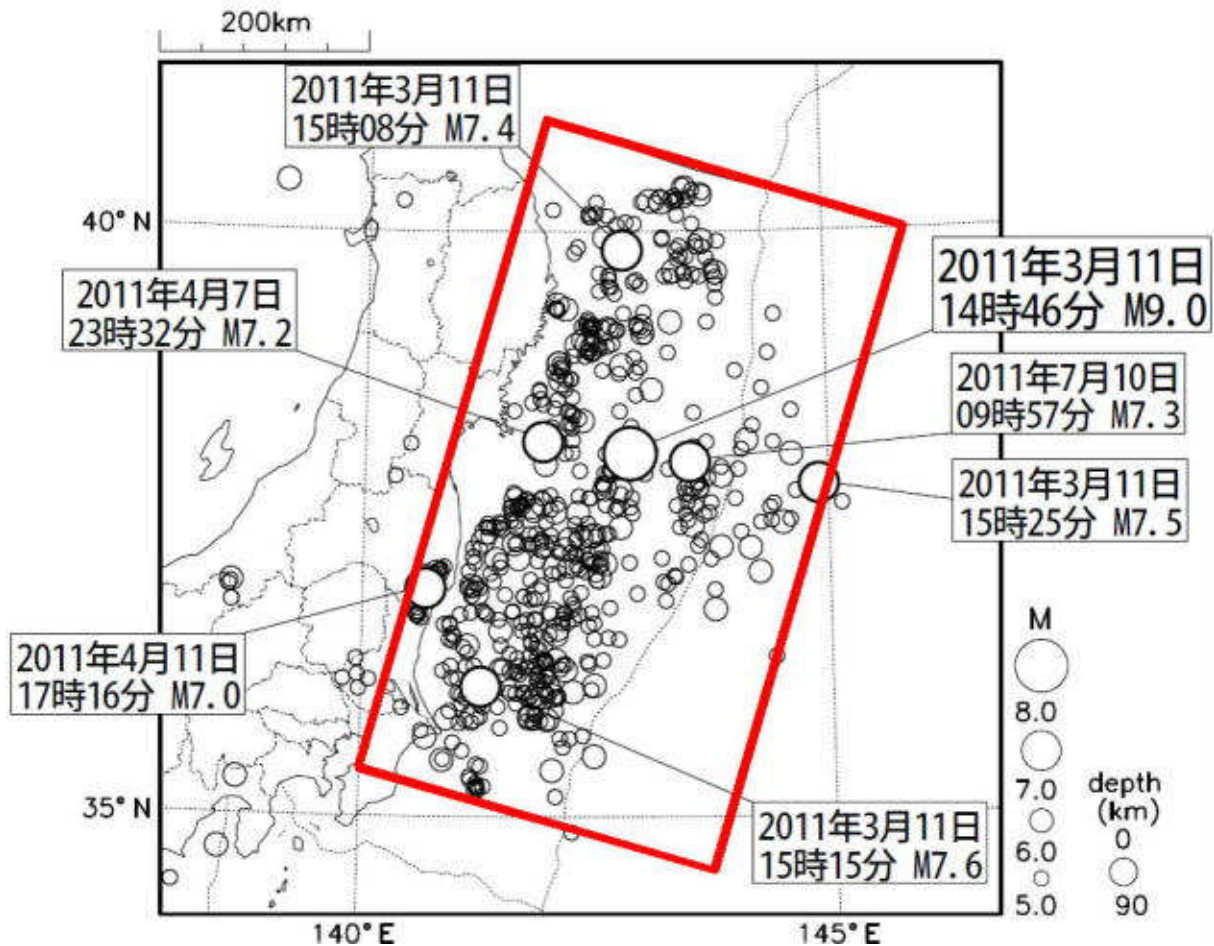
出典: 中央防災会議(内閣府)「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」第1回会合資料

## (2) 余震活動の領域について

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」（M9.0）の余震は、以下の赤枠の領域で発生。

この領域内に示した地震は、震源断層であるプレート境界で発生している地震の他、その領域に空間的に近い太平洋プレート内・陸側のプレート内の地震および、海溝軸の東側の地震、震源域に近い陸域の浅い地震も含んでいる。

（気象庁作成資料より）



（気象庁 HP より）